

# 議会だより

2019年 2 月 北海道中川郡豊頃町議会発行  
議会運営委員会編集



## 12月定例会

第4回定例会は、12月5日から開会され、町長から提案のあった補正予算など11議案を、いずれも原案どおり可決し、12日に一般質問等を行って閉会しました。



会計名	補正額	総額
一般会計(第6号)	▲9千247万円	46億2千116万円
国民健康保険特別会計(第3号)	27万円	5億8千24万円
介護保険特別会計(第2号)	137万円	3億8千974万円
簡易水道特別会計(第2号)	▲730万円	2億8千887万円
公共下水道特別会計(第2号)	▲170万円	2億6千691万円

◆ふるさと応援寄付金  
事業 1千460万円  
ふるさと納税による寄付者への返礼費用を寄付金額の増加により追加補正

◆豊頃中学校校舎耐力度調査委託業務 400万円  
豊頃中学校の老朽化の状況を調査する業務

◆校舎建築調査設計業務 100万円  
豊頃中学校の老朽化に伴い学校校舎のあり方を検討するための資料作成業務

◆畑作構造転換事業補助 2千51万円  
省力化につながる農業用機械を導入する組織への補助を導入件数の増加により追加補正

◆町有建物解体撤去工事 486万円  
町内3か所の危険廃屋を取り壊す工事

◆定住促進賃貸住宅建設補助 1千100万円  
2棟8戸分の賃貸住宅を建設する事業者への補助

## 補正予算の主なもの

※表示の金額は、1万円未満を四捨五入しています。



## 【 条 例 改 正 】

▼豊頃町職員の給与に関する条例の一部改正

国の人事院勧告に基づき、職員の給料表及び期末手当、勤勉手当の支給率を改正。

▼豊頃町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正

▼豊頃町特別職の職員の給与等に関する条例の一部改正

町職員の給与条例の改正と同様に、期末手当の支給率を改正。

▼豊頃町学童保育所条例の一部改正

児童福祉法に基づき、学童保育所の入所対象児童の年齢を小学校6年生まで拡大し、定員を増員する。また、学童保育料について2人目を3千円に、3人目以降を無料にする改正。

## 【 人 事 案 件 】

▼豊頃町教育委員会委員の任命

12月24日に任期満了となる櫻井康雄氏（二宮）を再任したいとの

提案があり、これに同意しました。なお、任期は平成34年12月24日までの4年間です。

## 【 その 他 の 議 案 】

▼十勝圏複合事務組合規約の変更  
十勝圏複合事務組合が共同処理するごみ処理業務を行う市町村の区域に、清水町、本別町、足寄町、陸別町を加える変更。

### 主な審議内容

#### 補正予算

◎穴谷友則議員 校舎建築調査設計業務について、業務内容は。

◎穴谷友則議員 校舎建築調査設計業務について、業務内容は。  
A 豊頃中学校及び豊頃小学校の校舎について、今後の方向性を検討していくために必要な資料を作成する業務である。

◎穴谷友則議員 中学校校舎耐

◎穴谷友則議員 中学校校舎耐力度調査委託業務について、調査内容と調査結果の判明する時期は。また、その結果の活用方法は。

A 豊頃中学校の老朽化の状況を調査する業務で、今年度末までに結果が判明する予定であ

る。その結果は、今後、中学校の建替えにあたり、利用できる国の補助金を検討するための基礎資料として活用する。



建替えが検討される豊頃中学校校舎

◎穴谷英樹議員 町有建物解体撤去工事について、建物を取り壊す3カ所の土地の今後の利用計画は。

A 茂岩本町の土地は、隣接する町道の見通しが悪く、道路幅も狭いことから、道路整備に利用する予定である。その他2カ所については、現在のところ特に利用計画はない。

## 議会運営委員会

議会運営委員会（大崎英樹委員長）では、円滑な議会運営を期すため、議会の開会期間・議会の日程・その他議会の運営全般等を協議し、調整を図っています。また、議会に提出のあつた請願書・陳情書の取り扱いについて、その審議を常任委員会に付託するか議員への写しの配付にどうめるかなどを協議、調整します。

審議結果については、本会議にて報告しています。



審議結果を報告する大崎英樹委員長

広報とよころ

議会だより

役場だより

▼主な審議内容



# 一般質問



岩井 明 議員

## 国の水産改革への対応は

Q 漁業法改革に対する認識は。

A 宮口町長  
今回の改正は、資源管理システムの構築、漁業権の許可制度や海面利用制度の見直し等が柱となっている。

新たな企業参加が懸念されるが、都道府県に資源保全の責務が加えられ、持続的な水産業を目指すものと考えている。

Q 本町の漁業従事者への影響は。

A 宮口町長

サケ定置網漁が中心の本町漁業に直ちに大きな影響を与えるとは考えにくい。改正に伴う動向を十分注視し、関係機関と協議を図りたい。

また、海区漁業調整委員の公選制の問題については、地域で選ばれた方を知事が任命する形で行うことは、今の段階では好ましいと考えている。



大津漁港の様子

Q 地元の漁業者を守るための方策や国、道への要望等の考えは。

A 宮口町長  
大変な不振の続く秋サケ漁については、資源回復、安定的な漁獲が継続できるよう、原因究明への努力をしていかなければならない。

広報とよころ  
▽一般質問  
議会だより  
役場だより

## 農業振興のため外国人労働者の雇用拡大は



坂口 尚示 議員

Q 入管難民法が改正され、外国人労働者の受け入れ拡大により労働力不足の緩和が期待されるが、見解は。

A 宮口町長  
労働力不足の解消のため、制度を活用し就業者を雇うことは適切と考えている。本町において、労働力不足を抱える介護・建設・農業等に外国人が就業すると思っており、できるだけ居住しやすい条件・対応等を支援していきたい。

法律改正により、浜で働く方々にどのような影響を及ぼすかは分からないが、大津漁業協同組合や浦幌町と十分協議し取り組んでいきたい。

Q 町内では、外国人が酪農業等に就事しているが、畑作の場合、通年雇用が厳しいことから、労働

## 農業被害対策として電気牧柵への助成は

Q 5年振りに鹿による農業被害が増加となった。鹿による農業被害対策の一つに電気牧柵の設置があるが、現在のものは、老朽化により農家負担も増えている状況である。更新に対する農家への助成の考えは。

A 宮口町長  
平成23年度から3年間かけて設置した電気牧柵は、国の補助事業を活用し、約270キロメートルの距離を整備した。整備箇所と同じ補助金は活用できないため、町単独での更新もしくは修繕となる。豊頃町農業協同組合と受益者と協議しながらそれぞれの財政的負担があるか調査すべきと考えている。

力の確保が難しくなっている。外国人労働者が通年で本町に居住できるよう方策を検討する考えは。

A 宮口町長  
町内では、現在、20人前後の外国人が酪農業等に就事している。畑作の状況は理解しており、今後、豊頃町農業協同組合や労働力が不足している農家の方に実態を聞きながら、雇用や研修など検討していきたい。

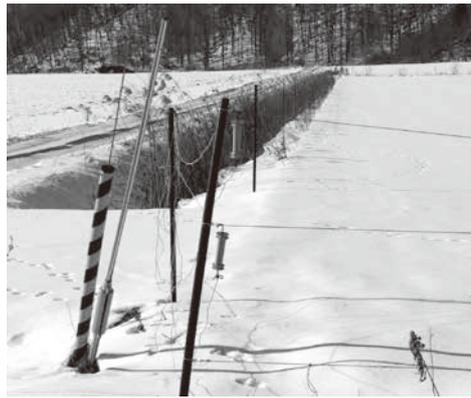


Q ポールの老朽化、機械類の故障、電気牧柵の線の不調等により、鹿による農業被害が拡大する懸念があるが。

A 宮口町長

猟友会にお願いして、鹿の駆除を進めていかなければならないと考えている。

それと合わせて、電気牧柵の問題についても検討していきたいと考えている。



畑を囲む電気牧柵

## 議会コラム

会議録とは？

会議録は、議会の審議内容や会議の発言をそのまま記載した文書です。

## 意見書

- ① 日米物品貿易協定交渉に関する意見書
- ② 道教委「これからの高校づくりに関する指針」を抜本的に見直しすべての子どもにゆたかな学びを保障する高校教育を求める意見書

①は産業厚生常任委員会、②は総務文教常任委員会にて審議した意見書案が、各常任委員会委員長である相澤昌幸議員、中村純也議員から提案説明され、いずれも原案のとおり可決し、関係省庁・機関に提出されました。



提案説明する相澤昌幸議員（左）と中村純也議員（右）



図書館に置いている会議録

広報とよころ

議会だより

▽意見書▽議会コラム

役場だより

## 今後の行財政運営を学ぶ

11月6日、芽室町中央公民館において、十勝町村議会議員研修会が開催され、全議員が参加しました。

研修会では、北海道総合政策部市町村課長の羽田翔氏の「今後の行財政運営の課題」と題した講演が行われました。

講演では、国の政策は国内外の情勢と密接に関わっていることが話されました。また、国と地方の共通課題である人口減少問題には、国の予算が投入されていることから、有効に活用し、今後の本町のまちづくりにつなげることが必要であると学びました。



十勝町村議会議員研修会



# 委員会レポート①



10月24日、総務文教常任委員会（中村純也委員長）は、「豊頃町立学校校舎等建築検討委員会の検討状況等について」として、同検討委員会作成の「豊頃町立学校校舎等の建築のあり方について」とする報告書の調査を行いました。

広報とよこる

▽委員会レポート①  
議会だより

役場だより

## 1 調査の経過と結果

### (1) 豊頃町立学校校舎等建築検討委員会の設置概要

本検討委員会は、平成28年度に総合教育会議において、豊頃中学校校舎の建替えが課題提起されたことを踏まえて設置された。

平成29年7月から平成30年8月までに、検討委員会を5回、道内小中学校の視察を2回行い、意見交換を行っている。

### (2) 検討委員会報告書の概要

本報告書の前段では、本町の人口推計を基に児童生徒数の減少状況、教育環境の変化を背景とした



教育委員会からの概要説明

学校教育法の改正や学習指導要領の改訂を踏まえた検討を行ったとしている。

検討事項とその結果は、次の①から④までの4項目である。

#### ① 校舎等の建築に関する事

中学校の建築方法では、新築と改修とを比較検討し、築後43年が経過し、将来的に多額の維持補修費用が予想されることから、新築が妥当としている。

建築形態・規模では、単独校舎と小中併設校舎とを比較検討し、全国的な小中一貫教育への流れや教育環境の変化に対応し得る学校施設を目指すため、小中一体型併設校舎の建設が望ましいとしている。また、全学校施設を新築する方法と、現豊頃小学校の一部改築と豊頃中学校の新築併設する方法の二案についても比較検討している。

#### ② 学校施設における環境整備に関する事

建設場所では、現豊頃中学校敷地と現豊頃小学校敷地に建設する場合を比較検討している。

#### ③ 建築に係る財源等、予算に

関すること  
建築予定年度では、築後45年（平成32年度）、築後50年等を基に意見交換し、本町の財政事情によるところが大きい。早期の新築が望ましいとしている。

#### ④ その他校舎等の建築にかかわる課題に関する事

付帯意見及び留意事項では、茂岩保育所の併設について意見があったが、諸課題の検討等が必要なため、具体的に言及しないとしている。また、小中一貫教育の方向性では、当面は報徳のおしえを中核に据えながら、ICT機器等を活用した遠隔授業や小中連携教育の深化を図りつつ調査研究を進めるとし、学校再編を検討したものではないことも示されている。

## 2 まとめ

本調査では、これまで当委員会が実施した所管事務調査報告などから質問事項をまとめ、それらへの

付帯意見及び留意事項では、茂岩保育所の併設について意見があったが、諸課題の検討等が必要なため、具体的に言及しないとしている。また、小中一貫教育の方向性では、当面は報徳のおしえを中核に据えながら、ICT機器等を活用した遠隔授業や小中連携教育の深化を図りつつ調査研究を進めるとし、学校再編を検討したものではないことも示されている。

なお、報告書のまとめでは、今後、町民への情報発信やパブリックコメントにより理解を深めていくことを求めている。

今回の学校校舎等の建築検討に当たっては、全国的に小中一貫教育への流れが加速している状況を踏まえて検討を行ったとしているが、新たな学校校舎のもとで行われる教育の姿を示した上で、校舎建築を進めるべきではないかとの意見や、建築場所については、現豊頃小学校及び豊頃中学校に隣接する土地も含めての検討も必要ではないか。また、今後の進め方や現在までの検討内容について、町民への情報提供を積極的に進めることが必要ではないかなどの意見が出された。

### ※要約掲載

の回答と報告書の説明を受けた。

この報告書の検討に当たっては、豊頃中学校の老朽化に伴う建替えについての検討委員会としての考え方をまとめたものであることを再度確認できた。その上で、

本町教育の将来的な方向性や目標設定については、本検討委員会における検討項目ではないことから、町教育委員会において校舎建築と平行して検討されるものと解した。

今回の学校校舎等の建築検討に当たっては、全国的に小中一貫教育への流れが加速している状況を踏まえて検討を行ったとしているが、新たな学校校舎のもとで行われる教育の姿を示した上で、校舎建築を進めるべきではないかとの意見や、建築場所については、現豊頃小学校及び豊頃中学校に隣接する土地も含めての検討も必要ではないか。また、今後の進め方や現在までの検討内容について、町民への情報提供を積極的に進めることが必要ではないかなどの意見が出された。

今回の学校校舎等の建築検討に当たっては、全国的に小中一貫教育への流れが加速している状況を踏まえて検討を行ったとしているが、新たな学校校舎のもとで行われる教育の姿を示した上で、校舎建築を進めるべきではないかとの意見や、建築場所については、現豊頃小学校及び豊頃中学校に隣接する土地も含めての検討も必要ではないか。また、今後の進め方や現在までの検討内容について、町民への情報提供を積極的に進めることが必要ではないかなどの意見が出された。

### ※要約掲載

今回の学校校舎等の建築検討に当たっては、全国的に小中一貫教育への流れが加速している状況を踏まえて検討を行ったとしているが、新たな学校校舎のもとで行われる教育の姿を示した上で、校舎建築を進めるべきではないかとの意見や、建築場所については、現豊頃小学校及び豊頃中学校に隣接する土地も含めての検討も必要ではないか。また、今後の進め方や現在までの検討内容について、町民への情報提供を積極的に進めることが必要ではないかなどの意見が出された。

今回の学校校舎等の建築検討に当たっては、全国的に小中一貫教育への流れが加速している状況を踏まえて検討を行ったとしているが、新たな学校校舎のもとで行われる教育の姿を示した上で、校舎建築を進めるべきではないかとの意見や、建築場所については、現豊頃小学校及び豊頃中学校に隣接する土地も含めての検討も必要ではないか。また、今後の進め方や現在までの検討内容について、町民への情報提供を積極的に進めることが必要ではないかなどの意見が出された。

### ※要約掲載



# 委員会レポート②



11月22日、産業厚生常任委員会（相澤昌幸委員長）は、「ジュエリーアイス観光の現状と課題について」として、ジュエリーアイス観光の実績、今後の課題等について調査を行いました。

## 1 調査の経過と結果

### (1) ジュエリーアイス観光に取り組むまでの経過

ジュエリーアイスとは、十勝川の水が氷結し、割れた氷が太平洋に流れ出し、波にもまれて大津海岸に打ち上げられる氷の塊である。平成24年に本町観光大使の浦島久氏が、ジュエリーアイスと命名し、メディアに取り上げられたことをきっかけに多くの観光客が訪れるため、住民の安全・安心と観光地としてよりよくすることを目的に取り組み始めた。



商工観光課からの概要説明

### (2) ジュエリーアイス観光の実績

平成28年度に十勝観光連盟が、十勝として初めてジュエリーアイスを冬季の観光資源として紹介し、翌年度に町観光協会が、観光客受入れの整備に取り組み始めた。

具体的には、北海道観光振興機構の補助金を活用し、パンフレット、ロゴマーク、大津海岸の最新情報等を随時更新した紹介用ホームページの制作、東京等でのプロモーションに参加した。また、多くの雑誌・テレビ・ラジオで取り上げられ、映像や写真等を提供した。受け入れ態勢の整備では、大津市街に休憩所・物産販売所、仮設トイレ4基を設置し、物産販売所では町内事業者が食事等の販売を行った。駐車場は、乗用車約70台分を整備し、大津港町の築山をバス待機所として用意した。また、誘導看板を多数設置し、見学場所の案内や駐車中のエンジン停止を喚起した。その結果、観光客入込数（約6千700人）、フェイスブックアクセス数（約42万人）は目標を大きく上回った。



大津市街での現地調査

### (3) 今年度の観光シーズンに向けた取組

大津地域と観光客との共生を図るため、大津漁業協同組合及び地域住民との意見交換会を開催し、予想を上回る観光客が早朝に訪れたことによる騒音や路上駐車、トイレの維持管理費用、観光ガイドの育成、観光消費の拡大策、観賞できないときの対応などの課題が出てきた。

このため、町観光協会では、今年度もより魅力ある観光資源を目指して交流人口の拡大につなげる

取組を実施する。

具体的には、昨年度の課題から、休憩所・物産販売所及び仮設トイレを汐見橋付近へ移設し、規模を拡大する。また、駐車場は、乗用車約130台分が停められるよう追加整備し、ガイド育成研修会の実施、多言語対応のパンフレットの制作等を行うとしている。

### (4) 今後のジュエリーアイス観光の方向性

観光客数は順調に推移しているが、景観を楽しむだけの通過型観光の割合が多く、町内での消費活動につながっていないのが現状である。そのため、町内の他の観光地、歴史的資源等とのつながりの強化により交流人口の維持・増加を図り、長期滞在型の観光地づくりを進め、観光客を移住定住につなげ、人口減少対策に資する取組を目標としている。

### 2 まとめ

本調査では、ジュエリーアイス観光の現状と課題について、休憩所並びに駐車場整備場所の現地視察を含めて調査した。

ジュエリーアイスは、昔からあ

広報とよこら

議会だより

▽委員会レポート②

役場だより



る自然現象として大津地域住民等に認識されていたが、メディアでの紹介や積極的なPRにより、北海道を代表する冬の観光資源の一つとして国内のみならず海外まで急速に広がり、予想を上回る観光客の入り込みであったことが分かった。また、受け入れ態勢が追いつかず、大津地域住民と観光客との共生が問題となつていていることから、話し合いの中から改善の方向性を導き出していることが確認できた。

大津地域の住民生活に十分に配慮を行った上で、引き続き積極的なPRや外国人を含めた観光客受け入れ態勢の整備を進め、更なる観光客の増加に期待したい。また、ジュエリーアイズ観光は始まったばかりであることから、引き続き実態把握や現状分析を進めるべきではないかとの意見や、町内の他の地域資源と合わせた観光プランの展開や冬季以外の時期など町全体での観光振興を考へるべきではないかとの意見、経済効果を高めるための通過型観光から滞在型観光へと発展させる構想を持つべきではないかなどの意見が出された。

※要約掲載

## 行政視察受け入れく土浦市議会・比布町議会

今年度は、多くの議会が行政視察により来町しました。

7月11日、茨城県土浦市議会会派「明政会」（会長く寺内充議員）が来町しました。

会派所属の議員5名が来町し、鳥獣被害対策実態調査について、本町職員から説明を受けた後、意見交換を行いました。

土浦市では、イノシシによる農業被害が課題となっており、駆除費用への補助や捕獲した鳥獣の処理等について質問されてい

ました。その後、農業農村サポート研修施設にて、(株)エレゾ社の方に用意していただいたジビエ料理を食



土浦市議会明政会行政視察

べ、料理の説明やシカ肉の処理加工方法等について熱心に聞いていました。

また、8月27日には比布町議会（並谷興二議長）が来町しました。議員のほか町職員など12名が来町し、火葬場の建設について本町職員からの説明と質疑応答を行いました。

比布町では、火葬場の改築の議論が進められており、出席した議員からは、建設業者の選定方法や整備内容等について質問されました。

その後、豊頃町葬斎場に移動し、建物や火葬炉を視察しました。



比布町議会行政視察

## 議会日誌

- 〔11月〕
- 6日 十勝町村議会議員研修会 く芽室町
- 10日 東京豊頃会 く東京都
- 20日 十勝町村議会議長会臨時会 く東京都
- 21日 全国議長大会 く東京都
- 22日 産業厚生常任委員会
- 30日 議会運営委員会
- 〔12月〕
- 5日 第4回定例会（1日目）  
（補正予算、条例改正、その他）  
総務文教常任委員会  
産業厚生常任委員会
- 12日 第4回定例会（2日目）  
（一般質問、意見書、その他）  
議員全員協議会

### ◎今後の予定

- 〔2月〕
- 18日 議員全員協議会
- 22日 十勝町村議会議長会定例会 く帯広市
- 28日 議会運営委員会
- 〔3月〕
- 5日 第1回定例会（1日目）  
（補正予算、その他）
- 8日 第1回定例会（2日目）  
（平成31年度予算）
- 12日 第1回定例会（3日目）  
（一般質問ほか）

※日程は変更する場合があります。

広報とよころ  
▽行政視察受け入れ▽議会日誌  
議会だより  
役場だより